

演奏者略歴 50音順

西條 貴人 (さいじょう たかと) ホルン

東京都出身。東京芸術大学音楽学部卒業。安宅賞受賞。大学卒業と同時に東京都交響楽団入団。ホルンを窪田克己、笠松長久、守山光三、千葉馨、松崎裕の各氏に師事。室内楽を中川良平、本荘玲子、カール エールベルガーの各氏に師事。1999年東京文化会館にてリサイタルを開く。NHK-FMリサイタル出演。東京シティフィルハーモニック管弦楽団を経て、現在東京都交響楽団首席奏者を務める。その間第59回日本音楽コンクール第3位、第14回管打楽器コンクール優勝、第67回日本音楽コンクール優勝。横濱金管五重奏団、ジャパンホルンカルテット、アレキサンダーホルンアンサンブルジャパン、他メンバー。現在国立音楽大学講師。

馬込 勇 (まごめ いさむ) ファゴット

国立音楽大学付属高等学校にてファゴットを三田平八郎氏、近藤寿行氏に師事。卒業後、渡欧。日本人初のウィーンフィル奨学生としてカール・エールベルガー氏に師事し、ウィーン国立音楽大学管打楽器科を首席卒業。ムジークフェラインザール定期演奏会にてソリストデビューし、ウィーン交響楽団他30を超える著名オーケストラとファゴット協奏曲を共演。CDはウィーン・プライザー、日本コロムビア、ポニーキャニオン、カメラータより多数。22歳でリンツ・ブルックナー管弦楽団首席ファゴット奏者に就任し、18年間勤める。1978年ウィーン・ヴァナス音楽コンクール第一位受賞。第36回ヴィオッティ国際音楽コンクール特別賞。1981年オーストリア文化大臣奨励賞。1988年から1993年、中国北京中央音楽院客員講師。1990年ウィーン・モーツァルト協会賞のほか、1997年オーストリアより功勞勲章・銀を受賞。1999年、池辺晋一郎、外山雄三、西村朗、吉松隆の委嘱作品による楽壇生活20周年「馬込勇・ファゴット4大協奏曲の夕べ」を東京交響楽団と開催。帰国。2001年より宮崎県川南町モーツァルト祭音楽監督。現在、平成音楽大学教授、国立音楽大学講師。

山本 友重 (やまもと ともしげ) ヴァイオリン

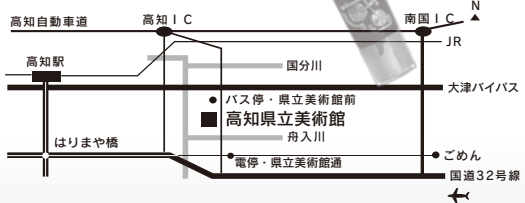
1969年名古屋生まれ。4歳よりヴァイオリンを始める。名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て東京芸術大学音楽学部へ入学。第39回全日本学生音楽コンクール名古屋大会第2位受賞。第10、11回沖縄ムーンビーチミュージックキャンプに参加。第10回霧島音楽祭に参加、特別奨励賞受賞。イタリアのレージョ・エミリアで行われた、第2回パオロ・ボルチアーニ賞、国際弦楽四重奏コンクールに、すばる弦楽四重奏団として参加、第3位及び特別賞受賞。副賞としてフランス、パリの国際カルテット・フォーラムに招待され、シャンゼリゼ劇場で演奏し、好評を博す。松尾財団室内楽コンクール第1位受賞。東京国際音楽(民音)コンクール室内楽部門で、第2位受賞。大学在学中より、すばる弦楽四重奏団、アール・レスピラン、ジャパンチェンバーオーケストラ、フェスティバルソリスト、日本各地の音楽祭などでの室内楽的な活動に意欲を燃やす傍ら、数多くのオーケストラのゲストコンサートマスターを務めた後、若干22歳で東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のコンサートマスターに就任。8年間に渡り重責を担って来たが、99年、退団。2000年からは、東京都交響楽団のコンサートマスターに就任、ここでの活躍も大いに期待されることである。またNHK FMリサイタルや、98年からの自主企画によるリサイタルをはじめ、ソリストとしても活動を展開させている一方、多数のアマチュアオーケやアンサンブルのトレーナーとしても評価が高い。これまでに、ヴァイオリンを大沢美木、北垣紀子、林茂子、泉山誠治、田中千香士、ヨゼフ・スークの各氏に、室内楽を原田幸一郎、ヤン・パネンカ、スメタナS.Q.、ラサールS.Q.、アマテウスS.Q.の各氏に師事。現在上野学園非常勤講師。

横川 晴児 (よこかわ せいじ) クラリネット

1968年に渡仏、ジャック・ランスロ、クリス・ドゥレクリューズ他に師事。ルーアン音楽院、パリ国立高等音楽院をともにブルミエ・プリを得て卒業後、フランス国内で演奏活動を行う。帰国後東京フィルハーモニー交響楽団を経て1986年にNHK交響楽団首席奏者に就任、現在に至る。ソリストとしても、N響定期公演はじめ国内外のオーケストラとたびたび共演。室内楽の分野では、国内外において数々の音楽祭・演奏会で著名なソリストたちと共演している。2001年にはブラームスのクラリネットソナタ集をリリース、「レコード芸術」誌では特選に選ばれ、同時に行ったリサイタルも話題となった。2002年からは軽井沢国際音楽祭で音楽監督を務めている。2009年NHK交響楽団より長年の功績に対して贈られる「有馬賞」を受賞。トゥーロン国際コンクール、ジュネーブ国際コンクール、デュティユ国際作曲コンクール、ニールセン国際コンクール、日本音楽コンクール等で審査員を務める。また、国内外で後進の指導にあたるほか、近年は指揮者としても活動している。国立音楽大学客員教授、ピュッフェ・クランボン社及びリコー・インターナショナル社専属マスター。

脇岡 総一 (わきおか そういち) オーボエ

広島市に生まれる。1972年東京芸術大学音楽学部卒業。その後、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、東京都交響楽団首席オーボエ奏者をつとめる。その間、1969年日本音楽コンクール入選、安宅賞受賞、卒業特別演奏会、NHK新人演奏会等に出演。1974年民音室内コンクール入選。1982年、文化庁海外派遣研修生として西ドイツ/ハンブルクにてW・リーバーマン氏に師事。1981年キングレコードより「メトロポリス木管五重奏団」のレコードが発売される。また、「東京ソリスト」[古典音楽協会]武満徹主催の「ミュージックトゥデイ」等を始めとする数々の演奏会に出演。さらに、「FMクラシックアワー」[午後のリサイタル]「クラシックオンステージ」等多くのテレビ・ラジオ音楽番組に出演。日本の第一線のプレーヤーを集めた「アウロス チェンバー アンサンブル」を主宰して日本各地での演奏会、放送などを行う。また、ウィーン・トリオ、シカゴプロムジカ、M. クレメント(ob)等海外の演奏家との競演も数多く、1994年にはロリン・マゼール指揮のバイエルン放送交響楽団、ピンカス・ズッカーマン指揮の イングリッシュ・チェンバー・オーケストラに出演する。また、スーパーワールド オーケストラ・ジャパン ヴィルトーゾ オーケストラ等のフェスティバル・オーケストラにも多数出演する。「脇岡の音」と題するリサイタルシリーズやオーケストラとの共演を始めとする、独奏者としての数多くのソロ活動も精力的に行い、日本音楽コンクール、全日本吹奏楽コンクール、日本クラシックコンクール全国大会等多くのコンクールの審査員もつとめている。2005年3月に東京都交響楽団を退団し、4月より高知大学教育学部教授に就任しフリーのオーボエ奏者としても活動をおこなっている。



Joyful Concert series Kochi

The Museum Hall
高知県立美術館ホール
高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI
〒781-8123 高知市高須353-2 TEL088・866・8000 FAX088・866・8008
<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum>